

親友を試合で廃人に追い込んだボクサーが、
復讐に来た彼の息子と試合する話

テンカウント

(リライト版)

リライト 大岡俊彦

登場人物

川田（39、回想時31、15）

プロボクサー。かつて親友の風間を
左ストレートで廃人にした。

風間ユウト（18、回想時10）

風間の息子。

川田と因縁の試合をする。

風間タクミ（30、回想時14）

川田の親友。試合で廃人になった。

川田の妻（35）

川田の息子（5）

レフェリー

アナウンサー

刑事

○ボクシングのリング上

ダウンした者の視界。
ぼやけた視点で、レフェリーがカウン
トする。

レフェリー「1、2、3……！」

倒れていた川田(39)、半身を起こす。

川田「アレ？ ……ダウンしてる？ ……！」

起き上がろうとする川田。

リングサイドでは、川田の妻(35)

と、息子(5)がキャンバスを激しく
叩いている。

レフェリー「5、6、7……！」

川田「やれるよ、やれる」

立ち上がる川田。

相手コーナーにいる、風間ユウト(1
8)。こちらを睨んでいる。

川田「あれ？」

足がもつれて倒れる川田。

レフェリー、両手を交差。

打ち鳴らされるゴング。

ユウト、左拳を右手に叩きつけ、天に
掲げる。

○川田の控え室

入ってくるユウト。

マスコミがフラッシュを焚いているの
が見えるが、閉めたドアで遮られる。

ユウト、ボコボコの顔の川田に、深く
一礼する。

ユウト「ありがとうございます」

川田「……この後ヒマ？」

ユウト「はい？」

川田「飯でも行かね？」

○町の中華料理屋

汚い庶民的な店で、ラーメンやチャー
ハンを食べる川田とユウト。

川田 「やっと食えるわー」
ユウト 「自分、そんなに食わないんで、どうぞ」

川田 「ユウトは次もあるもんな。俺は負けたし」

ユウト 「……」

川田 「俺、何で倒された？」

ユウト 「覚えてないんですか？（左ストレートを出す）」

川田 「あー、……まさかのソレか」

店のテレビはスポーツニュースに。

さっきの試合のKOシーンプレイバック。

スローモーションで。

川田 「ここまででは覚えてる」

川田、左ストレート。

ユウト、それを右パリーして、同じ左ストレートで返す。

アナウンサー 「因縁の……因縁の左ストレート！」

川田 「左ストレートに左ストレート返しか。

……狙ってたよな？」

ユウト 「（不敵に）当然でしょ」

川田 「……」

○回想、8年前、リングの上

川田（31）と試合するユウトの父、

風間タクミ（30）。

川田の左ストレートが当たり、タクミ倒れる。

アナウンサー 「川田必殺の左ストレート！

これは危険な倒れ方！ かつて同じジムに通っていた親友の風間に、川田の無慈悲な一撃イイイ！」

レフェリー、両手をクロスして試合を止める。

○回想、8年前、風間の家、門前くリビング

警察がたくさん来ている。

「立ち入り禁止」のテープをくぐり、中に入る川田（31）。

リビングでは、腐乱死体に毛布が被せられている。

部屋の中につくられた檻のような座敷牢に、やせこけて目だけギラギラしたユウト（10）が体育座りをしている。

刑事 「良かった。川田さんしか連絡先が入ってなくて」

ユウトは川田の到着に気づき、恐ろしい形相で睨む。

新聞 『風間タクミ、川田の殺人パンチで廃人だった』

『狂気の息子監禁、虐待疑惑も』

○（元に戻り）中華料理屋

ユウト「（左拳を突き出し）あなたが親父をきちがいに追い込んだパンチで、あなたを倒せましたよ」

川田 「……（鼻で笑う）」

ユウト「？」

川田 「まだ俺は、廃人になっていないぜ」

ユウト 「……は？」

○その外、シャッター商店街、夜

構える川田。

川田 「別に今、俺はここでやってもいいぞ」
思わず構えるユウト。だが思いとどまる。

ユウト「いや、リングでやりたいです。再戦のオファーしてください。事務所は俺から説得します。マスコミも来るでしょ」

川田 「リベンジのリベンジ……。どちらが最強の左ストレートか」

ユウト「父を殺された息子、仇は父の親友だった」

川田 「……悪くない」

○風間の墓

に参る川田。

川田 「いやー、負けちまったよ。ユウト、強くなったな。ラスト以外も、危ない場面たくさんあったしな。見てたか？」

かわしたカウンターを合わせたり、試合の再現をする川田。

川田 「お前……随分とアイツを鍛えたな」
風間の幻影が、墓の前に現れる。

笑う風間。笑う川田。

風間、クツキーの缶を持っていて、川田に見せる。

サビでボロボロになっている。

川田 「？ ……あっ！ タイムカプセル！」

○リニューアル工事中の中学校

川田 「あー、もう校舎ねえんだな」

× × ×
中学時代の回想、校舎裏。

川田（15）と風間（14）が、手製グローブをつけて、ボクシングの真似事を行っている。

川田 「もうボクシング部つくろうぜ風間」

風間 「俺とお前だけじゃ部員足りねえだろ」

川田 「じゃ二人でジム通うか」

風間 「金は？」

川田 「高校入ったらバイトだな」

風間 「バイトしながらボクシング？」

川田 「伝統的に、新聞配達でロードワークだろ」

風間 「あ！ ドラマとかで見たことあるやつ！ こう、フード被って、新聞抱えて……」

シヤドウボクシングをする風間。

川田 「そうだ、タイムカプセル用の、持ってきた？」

風間 「おう。プロになって、俺たちの決着

ついたら開けようぜ」

川田 「お互いの弱点。それに対するアドバ
イス」

風間 「勝った方が開けられる」

缶に、封をした手紙を入れる二人。

× × ×

掘り出される、ボロボロにサビた缶。

開ける。ボロボロの手製グローブに、

「プロになるぞ！」とマジックで書い
てある。

そして、二通の手紙。

まず「風間へ」と書かれたものを開け
る。

手紙 『俺の左ストレートはダッキングでか
わせ』

川田 「……お前、かわしきれなかったしな
ら……」

左ストレートをもろに食らう風間の回
想。

続けて、「川田へ」と書かれた風間の手
紙を開ける。

手紙 『左ストレート↓左アッパーのダブル
なら、かわした奴にも当たる』

川田 「……ほう」
それをやってみる川田。

幻影の風間（30）がお手製のグロー
ブをつけている。

左ストレート↓アッパーのダブルを打
つ川田。

かわした風間の顎を捉える。

川田 「……友情の、ダブルパンチ」
顎を打たれた風間、ニヤリと笑う。

○リングの上

アナウンサー「サア！ リベンジのリベン

ジ！ 父を殺され、座敷牢に幽閉された、

悲劇のボクサー風間ユウト！ 親友を左ス

トレートで廃人に追い込み、その息子に追

われる川田タケシ！ 前回は父を倒した左

ストレートで、風間が雪辱を果たしました！ だが川田は言った！ 『そのパンチで俺を廃人にしたのか？』と！ 『本当に父の仇を、打ったのか？』と！ どこまで因縁は続くのか！ それが今夜の試合です！」

試合開始。一進一退の攻防。

川田、左ストレート、ユウトも同時に左ストレートを返す。

バチーンという音。

アナウンサー「左ストレート同士の相打ち！

だが浅かったか？ 川田もう一度左ストレート！ ……同じく相打ち！」

ユウト、「来いよ」とアピール。川田の左ストレートと、三度相打ち。

鼻血を吹く川田。鼻血を吹くユウト。

二人とも、時が止まったかのよう。

× × ×
以下、スローモーション。

川田、左ストレートを放つ。

ユウト、それをパリリーして左ストレート。

だがそこに川田はいない。沈み込んで、下から左アッパーを突き上げる。

ダブルパンチのモーションだ。川田、勝利を確信。

ユウトはニヤリと笑い、のけぞってかわして右ショートフック。

それが川田のテンプルを捉える。

× × ×
元のスピードに。

アナウンサー「川田、ダウン！ 立てるか？

立てないか？」

レフェリー「1、2、…」

○回想、8年前、風間の家、リビング

出来たばかりの座敷牢を、ユウト（8）に説明する。

風間 「いいかユウト。父さんは川田のパン

ちできちがいになっちゃったんだ。だから時々暴れるかもしれない。その時はここに隠れて、きちがい父さんから身を守れ」

ユウト「……うん」

風間 「よし、いい子だ。必殺パンチを教え
たよな？ 左ストレート」

ゆっくりと左拳を出す。

ユウト「パリィして同じパンチ」

風間 「それをかわして左アッパーのダブル
パンチ」

ユウト「かわしてショートフック」

その通りにゆっくりとやる。

風間 「よし」

リアルのスपीドでやる。

見事に風間のテンブルを捉えるユウト
の右ショートフック。

もう一度、ステップを踏みながら同じ
ことをやる。

何度も何度も繰り返す。

× × ×

風間、よだれを垂らして、気が狂った
ように暴れる。物を投げる。壊す。

風間 「川田ああああ！ 川田ああああ！」
座敷牢の中で、教えられたことをひた
すら繰り返すユウト。

何度も何度も繰り返すことで精神を安
定させている。

涙が流れても続ける。

○（元に戻って）リングの上

レフェリー「1、2……！」

コーナーポストでカウントを聞くユウ
ト。

倒れた川田の肉体、けいれんを始める。
レフェリー、危険を察知して試合を止
める。

アナウンサー「川田、大丈夫か？ 気を失っ
た？ まさか、廃人に……？ 廃人パンチ
のお返しカーッ？」

川田、ぴくりとも動かない。
リングの上で、風間の幽霊が見ている。
そこに、川田の幽霊がやって来る。

風間 「よう」

川田 「てめえ、手紙に嘘書いたな？」

風間 「そこまで含んで試合だろ」

川田 「……」

爆笑する川田。

爆笑する風間。

川田 「参ったよ。負けた負けた。天国は、ボクシング観れんのか？」

風間 「特等席だな」

川田 「俺は廃人止まりだったが、お前の息子は殺人までランクアップしたな」

風間 「じゃあ俺の勝ちだな」

川田 「……まだ決着はついてねえぞ？」

風間 「は？」

リングサイドでキャンバスを叩いている、川田の妻と息子。

川田の息子。ものすごい形相で、ユウトを睨む。

ユウト 「……（来いよ、とグローブで煽る）」

川田 「テンカウントは、まだ聞いてねえ」

ニヤリと笑う川田。

ニヤリと笑う風間。

ニヤリと笑うユウト。

睨む川田の息子。

○タイトル 「テンカウント」